

R3年11月放送分
「令和3年版防衛白書について」
(日本の防衛Q&A)

R3.10.22収録

【パーソナリティー】

今月の放送は、東北防衛局の市川道夫局長からお話を伺います。市川局長、よろしくお願ひします。

本日は、令和3年版防衛白書についてお話しをいただきます。今、私の手元に防衛白書があるのですが、まず気になるのはこの表紙の絵ですね。この絵は、騎馬武者ですか。

【局長】

はい。早速表紙に注目していただき、ありがとうございます。今年の防衛白書には、表紙全体に墨絵による騎馬武者が描かれています。これが書店に並んでいたら、思わず手に取ってみたいくなる人も多いと思います。

この絵は、世界的に注目を集める墨絵アーティストの^{にしもとゆうき}西元祐貴さんによるものです。

この墨絵には、防衛省・自衛隊の「力強さ」や国を守る意思の強さ、といったものが表現されています。

【パーソナリティー】

私の手元に他の官公庁から発刊されている白書もありますが、表紙だけ見ても、だいぶ雰囲気違いますね。

【局長】

国のそれぞれの行政機関では、実施した施策を国民に対して説明するという趣旨から、毎年、白書を刊行しています。刊行された白書は、一般の書店でも発売されます。発売部数は、白書ごとに違うのですが、^{もぎ}茂木さんは、どの役所の白書は人気があると思いますか。あるいは、防衛白書は人気があるのか、ないのかについてはどう思いますか。

【パーソナリティー】

(自由にお答えください。)

【局長】

防衛白書の発売部数は、国の行政機関の白書の中で、第1位です。

【パーソナリティー】

なるほど、そうなんですね。

では、次に、この防衛白書の中身について教えてください。

【局長】

はい。

令和3年版防衛白書には、令和2年4月から令和3年3月までの1年間、つまり昨年度における防衛省・自衛隊の活動や国際情勢が記述されています。ただし、重要な出来事については、今年の5月くらいまでの出来事も記述されています。

【パーソナリティー】

昨年1年間での大きな出来事というと、新型コロナウイルスへの対応などですか。

【局長】

そうですね。

新型コロナウイルス感染症に対し、自衛隊は、文字通り総力を挙げて対応しました。全国35の都道府県に対し、災害派遣というかたちで、自衛官であるお医者さん、医官と呼んでいますが、医官を含む自衛隊員を医療支援のために派遣したり、自衛隊の病院に陽性が判明した患者を受け入れたり、また、東京と大阪に自衛隊大規模接種センターを設置してワクチン接種を行ったりと、様々な活動を実施しました。これらの活動は、特集ページを設けて紹介しています。

【パーソナリティー】

国際情勢については、どのようなことが記述されていますか。

【局長】

例えば、我が国の安全保障にとって懸念される動きとして、尖閣諸島周辺の中国海警の動きについて、紹介しています。

【パーソナリティー】

中国の海警という言葉は、ニュースでも聞くことがあるのですが、どのような組織なのですか。

【局長】

中国の海警という組織は、中国の、いわば海上保安庁に相当する組織ですが、軍事的な任務も付与される可能性がある組織です。中国は、尖閣諸島は中国の領土だと主張していますので、そういう独自の主張を行動で示そうとして、海警の船舶を日本の尖閣諸島の周辺に派遣して、頻繁に日本の領海に侵入したり、領海のすぐ外側の海域である接続水域に、何日間にもわたって居続けさせたりと、そういう活動を行っています。

【パーソナリティー】

日本にとって受け入れられない出来事が、実際に日本の周辺の海で起きているのですね。それ以外に国際情勢で注目しているものはありますか。

【局長】

アメリカのバイデン政権の誕生とそれに伴う安全保障政策の行方について説明しています。米国は、日本にとって唯一の同盟国です。トランプ政権からバイデン政権に移行する中で、米国の政策がどう変化しているか、あるいは変化しない部分はどこかなど、詳しく紹介しています。

例えば、変化するところとしては、バイデン大統領は、アメリカ単独の取り組みではなく、同盟関係を重視して世界に関与していくという姿勢を見せています。

一方、変わらない部分は、中国への対応です。トランプ政権は、中国を世界の秩序に対する修正主義勢力と位置づけ、中国との戦略的競争を重視するとしていました。バイデン政権でも、急速に軍事力の近代化を進める中国を抑止しようという姿勢に変化は見られず、バイデン

大統領自身も、中国を「最も深刻な競争相手」と言及しています。

今年の白書では、こうした点を紹介しながら、特に台湾をめぐる、米国と中国との間で対立が顕在化する可能性が否定できないと記述しています。

【パーソナリティー】

台湾をめぐるアメリカと中国の対立について、私たちはどのようにとらえたらよいのですか。

【局長】

台湾から中国本土までの距離は、近いところでは130km程度です。一方、台湾から日本の与那国島までは、110kmしか離れていません。仮に台湾で何かが起こった時ということを考えると、日本の安全保障にとって影響は少なくないのではないのでしょうか。

この点に限らず、防衛白書では、日本がどのような安全保障上の課題に直面しているのかについて紹介しています。また、安全保障上の課題に対し、自衛隊がどのような防衛力を整備しようとしているのか、あるいは、日米同盟関係をより強固なものとするためにどのような取組を行っているかについても、紹介しています。

【パーソナリティー】

この1年の国際情勢の動きと、それに対する防衛省・自衛隊の歩みが、これを読めば分かる、ということですね。

ところでこの防衛白書、結構厚みのある本なのですが、局長は、どのような方に防衛白書を読んでほしいとお考えですか？

【局長】

私としては、学生などの若い世代を含んだ一般の方にも、ぜひ防衛白書を読んでもらいたいと思っています。

確かに今年の防衛白書は、例年に比べれば薄くなったとはいえ、全部で470ページあります。また、国の1年間の施策をしっかりと説明しようとしていますので、専門用語も出てきて、一般の人が気軽によむ、というものではないかもしれません。

このため、リスナーの方が、例えば、新聞記事やテレビのニュースなどで何か気になる防衛問題や国際情勢を目にしたときに、「この問

題についてもう少し詳しく知りたい」とか、「これはいったいどうなっているのだろう」と疑問に思った場合に、防衛白書をめくってみる、という風に使っていただいたらいいのではないかと思います。

【パーソナリティー】

書店で売っているんですよね。値段はいくらぐらいするのですか。

【局長】

1,400円です。ただし、防衛白書は書籍として販売されているほか、防衛省のホームページでも閲覧や無料でのダウンロードができます。気軽に防衛白書をご覧になっていただき、防衛省・自衛隊をより身近なものに感じていただければと思います。

【パーソナリティー】

ありがとうございました。

本日は、令和3年版防衛白書について、東北防衛局の市川道夫局長から、お話しをお伺いしました。市川局長、どうもありがとうございました。

【局長】

こちらこそ、どうもありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆様からご意見・ご感想を募集しております。

お聴きのコミュニティ放送局までご連絡ください。